
ダイコンによる「三浦半島魅力最大化プロジェクト」

【横須賀三浦支部】 横須賀三浦地域県政総合センター 農地課

1 プロジェクトの趣旨

三浦半島地域は、首都圏のベッドタウンとして発展してきましたが、近年では、他の地域との地域間競争が激化したことや、丘陵が多く平地が少ないという三浦半島特有の地形の影響もあって、既に人口減少が始まっています。

横須賀市では 1992 年の 435,092 人をピークとして減少傾向に転じ、三浦市では 1994 年の 54,339 人をピークとして減少しており、2020 年の将来推計人口をみると、2010 年国勢調査との比較で、三浦半島地域の 4 市 1 町（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市及び葉山町）の全てで人口が減少するとされています。

このため、一刻も早く地域振興、人口減少対策に取り組まなければなりません。それを可能にするポテンシャル、他の地域にはない魅力を多数有していますので、三浦半島らしさにこだわった地域活性化策を講じて三浦半島の人口減少対策に取り組む。

2 農地課の取組み

三浦半島は、ご承知の通りダイコンの全国的な産地です。農地課では、支部会員の協力の下、ダイコンを活用した次の 3 事業によりプロジェクトに取り組まれましたので紹介します。

(1) ダイコンの消費拡大と観光農業の可能性を探るモデル事業

① 事業の方向性

主要農産物であるダイコンは、三浦半島を代表するブランド野菜であるが、市場価格の変動が大きい。近年は消費が落ち込んできている。

このことから、消費拡大と生産者の新たな収入源として、ダイコンによる観光農業の可能性について探るとともに、ダイコンの消費を喚起することで三浦半島の農業の振興を図る。

② 事業内容

三浦半島を訪れる観光客が、気軽に立ち寄り、畑でダイコンを抜き取って買い取る収穫体験型の直売方式の農園とする。

③ 平成 29 年度の実績

委託先 三浦市農協

開催日 平成 29 年 12 月 9 日（土）、10 日（日）、16 日（土）

17 日（日） 計 4 日間

場 所 三浦市金田太々久保土地改良区内

集客者数・売り上げ 330 名、134 千円

費 用 青首ダイコン 詰め放題 一袋 1,000 円

三浦ダイコン 一本 400 円 他

所 見 （三浦市農協）

県の協力によって、昨年よりも宣伝範囲を広げられたことにより集客効果があり、売り上げは向上した。

場所が分かりにくい等の意見があったので、来年は開催場所の変更も含めて検討していきたい。

(2) 三浦半島実感事業地域資源活用ツアー

① 事業の方向性

三浦半島の農業体験及び農産物の試食ツアーにより、「三浦ダイコン」等の認知度向上と三浦半島の特徴ある農業への理解を深める。

② 事業内容

小学生以下の親子連れを対象に、協力農家の畑及び作業場で農家の仕事を体験（ダイコンの抜き取り、洗浄、箱詰め）。

その後、金田漁港 2 階レストランにて、昼食（三浦ダイコンを使ったブリダイコン）

最後に、太々久保観光農園に立ち寄り、三浦ダイコン等を抜き取り、お土産として持ち帰ってもらう。

③ 平成 29 年度の実績

委託先 京急観光

（京急観光が自社の「けいきゅうキッズチャレンジ」の一企画として実施）

開催日 平成 29 年 12 月 17 日（日）

場 所 協力農家の畑、作業場

三浦市金田太々久保土地改良区内

集客者数・売り上げ 大人 23 名、小学生 18 名、64 千円

参加費用 親子ペア一組 3,000 円 昼食付き

所 見 平成 28 年度は漁業体験とセットで実施したが、今年度は、農業体験だけの実施。当初、集客に不安もあったが、全く問題なく、発売初日に満席となりキャンセル待ち多数の状態となった。

京急観光としても事業として良い感触を得ており、県の補助がなくても続ける可能性を検討したいとしている。

(3) 三浦半島農業体験研修

① 事業の方向性

全国有数の生産力を誇り、営農意欲の高い担い手農家の生産現場を活用した体験研修を実施し、就農機会の動機付けや繁忙期等における補完労働力の確保に向けた取組みを実施する。

② 事業内容

18 歳以上（高校生は除く）で、農業に興味のある方、就農を考えている方を対象とし、三浦半島の農業を知り、農作業体験をする機会として収穫を中心とした基礎研修を実施する。また、平成 28 年度の研修生の中から継続して研修を希望する方に対し、実践研修を実施する。

※ 研修は、それぞれ 2 日間実施。基礎研修 1 日目は繁忙期になる前に実施、2 日目は繁忙期における農作業とする。実践研修は、繁忙期に 2 日間実施。

③ 平成 29 年度の実績

委託先 よこすか葉山農協、三浦市農協

開催日 [横須賀市会場]

基礎 平成 29 年 12 月 9 日、平成 30 年 1 月 13 日

実践 平成 30 年 1 月 13 日、1 月 14 日

[三浦市会場]

基礎 平成 29 年 10 月 21 日、12 月 16 日

実践 平成 29 年 12 月 16 日、12 月 17 日

場 所 受入農家の畑、作業場

研修参加者数 基礎研修 11 名、実践研修 4 名

受入農家数 基礎研修 4 戸、実践研修 2 戸

参加費用 無料

所 見 当初、繁忙期に素人の研修を受け入れることについて不安もあったが、農業に興味のある方、就農について検討している方はまじめに取り組み、受入農家からも労働力として非常に助かった等の評価を頂いた。

研修生からは「今後、県を通さずに直接連絡を取り合い、援農等を続けることも考えたい。」といった意見もあった。

3 イベント、農業体験研修を行っての各担当者の所見

(1) 観光農園

開催してみて、やはり農業に興味を持っている方々は非常に多いという感想を持ちましたが、観光農園を新たな事業として展開して行くには、開設農園の運営経費を売り上げだけで捻出する必要があり、それにはさらなる集客が必要となります。

地域振興のためのイベントを始めて 2 年間という短い期間ではありますが、栽培して売るだけでなく魅せる農業としての必要性などを少しずつ理解して頂けているのではないかと感じています。

(2) 資源活用ツアー

昨年度実施した水産のイベントを外したことにより、内容がダウングレードしてしまい、参加希望者が減少するかと思っただが、意外にも申し込み多数でキャンセル待ちが発生するほどであった。参加者の声を聞いてみても、農業のみに焦点を絞ったツアーの方が好感触であることが判明した。

委託先の京急観光株式会社からは、農業に関してのツアーは人気が高いことから、県の補助が切れた後も自発的に継続していきたいといった発言もあった。

参加者及び委託事業者の反応からも、三浦半島農業を観光資源として活用することの可能性が見えてきたと言える。今後県が外れてしまっても、イベントを実施したことで生まれた三浦半島地域と旅行会社との繋がりを利用し、新たな事業を展開していくことを期待しています。

(3) 農業体験研修

参加した研修生は、今は違う仕事をしているが将来就農することを視野に入れている方や定年後に援農を希望する方など、農業に大変興味を持っている方が多く、とても意欲的に研修に取り組んでいました。

研修受入れ農家からは、繁忙期の人手が足りない時期に来てもらえると大変ありがたいというお言葉をいただきました。しかし、農家も一年を通して毎日同じように仕事があるわけではないので、継続雇用は難しいとの声も聞かれました。

真剣に就農を考えている研修生には、三浦半島での新規参入が厳しいことは伝えましたが、この研修で出会った地元農業者と、これからもこのコネを維持し、研修しながら信頼をもらい、農家間の情報が入るようになれば農地の借受も不可能ではないので、諦めずに県や市町の農業委員会に赴いて相談してほしいと思います。

また、繁忙期の労働力不足の解消には、人材バンクのような形で、援農希望で登録している方々を必要とする農家さんのところへ送り込むというような仕組み作りが必要ではないかと思いました。

観 光 農 園



資 源 活 用 ツ アー



体 験 研 修

